

～子供に夢や感動を！～

東京教師養成塾通信

発行日 平成 27 年 10 月 11 日
＜第 6 号＞
発行元 東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電話 03-5802-0318



東京教師養成塾は、関係大学や教師養成指定校、学校経営支援センター、区市町村教育委員会との連携を図り、豊かな人間性と実践的指導力を兼ね備えた人材を、学生の段階から養成しています。今年度で 12 年目を迎え、これまでに約 1,300 名以上の修了生が東京都の教員として活躍しています。

「東京教師養成塾通信」は、東京都教育委員会が設置した東京教師養成塾の活動について広く知っていただくための通信です。

●第 12 回ゼミナール

「学級づくりの基礎② ～養成塾修了生から学ぶ学級経営の実際～」

9 月 12 日 (土) に第 12 回ゼミナール「学級づくりの基礎②～養成塾修了生から学ぶ学級経営の実際～」を実施しました。今回は、養成塾第 11 期修了生から具体的な体験談等の話を聞くことを通して、学級経営を充実させるための学級担任の役割について理解することをねらいとしました。

前半は、「養成塾の学びを生かした学級づくり」について、パネルディスカッションを行いました。パネラーとして、修了生代表の新宿区立早稲田小学校 佐藤 俊太 教諭、杉並区立三谷小学校 長尾 春奈 教諭、八王子市立山田小学校 菅原 真美子 教諭、武蔵村山市立第四小学校 中村 加純 教諭、府中市立小柳小学校 日向 功 教諭から、塾生として学級経営をどのような視点で学び、現在の学級にどのように生かしているのかについてお話しいただきました。また、児童理解や保護者対応で普段から心掛けていることについても、伺いました。

後半の班別協議では、班ごとに修了生が入り、これまでの学級経営の取組や、教員になるまでに学ぶべき点等についてお話しいただきました。

塾生は、特別教育実習中に多くの先生方の授業を見せてもらうことや、塾生のうちに教材研究をたくさん行うことといった修了生からアドバイスを受け、これからの伸長期に行うべきことや目標を明確にすることができました。

＜塾生の感想＞

- ・ 一年間の特別教育実習の中で、様々な先生方の学級づくりを見ることができるので、この時間を今まで以上に重視し、教室環境や指示の出し方など、より多くのことを吸収していきたいと思った。
- ・ 担当学年の異なる先生方からそれぞれの学級経営についての話を伺った。特に、特別な支援を必要とする児童の在籍する学級の学級経営に関する話では、その児童だけでなく、他の児童も大切にすることが重要であることを学んだ。
- ・ 学級担任としてアレルギーのある児童・生徒への対応など、ただ授業をするのではなく、様々なことに配慮する必要があることを改めて実感した。
- ・ 具体的な指導について聞くことができ、自分が来年の 4 月に教師として子供たちの前に立つ際、どのようなことに心掛ければよいのか少しずつ見えてきた。また、実習中に意識しておいた方がよいことについても教えていただけたので実践していこうと思う。
- ・ 修了生の話聞き、教師一年目でも学校の即戦力となるように、日々の学びを大切にしていきたいと感じた。また、今後は教師になったときの具体的なイメージをもち、子供の良さを伸ばすためにはどのようなことができるのかを学んでいく。
- ・ 班別協議では、自分が不安に感じていることなどを修了生に聞くことができた。また学級での工夫を細かく教えていただいたので、早速自分ができるところを実践していきたいと思う。
- ・ 4 月から学級経営を一人で行っていくために、今のうちになるべく多くの先生方から見て学び、自分のものにしていく必要があると感じた。



—養成塾第 11 期生代表の様子—



—班別協議での修了生と塾生の様子—



—班別協議での修了生の様子—

●異校種等の授業の参観

異校種等の授業の参観では、小学校コースは異なる学校種、特別支援学校コースは指定校とは異なる障害種の授業を参観することで、教育活動の取組の様子や児童・生徒の発達段階に応じた指導等への理解を深め、学校教育に対する視野を広めることを目的としています。

特に現在、小学校教員の特別支援教育に対する理解と適切な対応が課題となっています。

そこで、今年度は、次の10校の都立特別支援学校に御協力いただき、小学校コースの塾生は1回、特別支援学校コースの塾生は2回訪問し、授業を参観させていただくとともに、校長先生や主幹教諭等の先生方から、各学校の取組について講義を受け、特別支援教育に対する理解を深めています。

異校種等の参観協力校

都立志村学園、都立鹿本学園、都立光明特別支援学校、都立大塚ろう学校、都立北特別支援学校、都立立川ろう学校、都立永福学園、都立武蔵台学園、都立多摩桜の丘学園、都立久我山青光学園

＜小学校コースの塾生の感想＞

児童・生徒の発達段階に合わせて、先生方が児童・生徒に豊かな表情で働きかけているのが印象的だった。先生方が一方的に働き掛けるのではなく、「児童・生徒が自分でできること」を把握し、それを基に指導を考え、授業を磨いていく大切さを改めて実感した。今後、特別教育実習では、学級の中にも数名いる特別な支援が必要な児童に対する関わり方を考え直していきたい。また、特別な支援が必要な児童だけでなく、どの児童に対しても児童ができることを把握し、次の活動につなげるための支援を行うことを心掛けていきたい。

＜特別支援学校コースの塾生の感想＞

特別教育実習で生かしていきたいことは、子供への積極的なアプローチと共に喜びを分かち合うことである。少しの反応にも大きなリアクションや明るい声で応えていきたい。私が教師になるために足りない部分を今回の参観で改めて感じることができ、これからの特別教育実習での目標や、授業の組み立て方について、課題を明確にすることができた。

【連載シリーズ コラム⑤】

◇学級集団づくりに向けて◇

東京教師養成塾教授 武田 一郎

子供たちは、学校生活の多くを学級集団の中で過ごしています。子供たちにとって、どんな学級集団で過ごすかによって、生活が大きく変わってしまうのです。だからこそ教師は、一人一人の児童・生徒が安心して楽しく過ごすことのできる学級づくりに努めなければなりません。どうすれば、そんな学級集団をつくることのできるのか。そのためのポイントとなることを3つほど挙げてみます。

1 学習面・生活面での規律を確立する。

「何を言っても馬鹿にされない。冷やかされない。暴力を振るわれない。」こうした環境づくりは、とても重要です。子供たちに、人を馬鹿にしたり冷やかしたり、暴力を振るったりすることが、人間として許されないことをきちんと指導しなければなりません。人を傷つける言動は絶対に許さないという毅然とした態度を示し、そのための規律をしっかりと確立することです。規律が守られることで、子供たちは安心して学校生活を送ることができるのです。

2 児童・生徒相互の好ましい人間関係づくりに努める。

児童・生徒相互の好ましい人間関係づくりに努めることは、学級集団づくりにおいて特に大切です。教師が学級集団づくりにおいて何も指導しなければ、好ましい人間関係は、まず生まれません。通常、子供たちは友達の悪いところは指摘しても、よいところを指摘することはほとんどないからです。ですから、ふだんから意図的に友達のよさを評価する場を設定する必要があります。教室の中に「あったか言葉の木」という掲示物を見たことがあります。「葉っぱ」に友達のよいところや親切にされたことなどを書き、その木の枝に貼るのです。葉がたくさん生い茂れば、学級内も温かさに包まれることでしょう。

また、普段から授業の中で「教え合い、学び合い」の活動を意図的に取り入れることも効果的です。教師は、いろいろな機会を利用して、児童・生徒相互の好ましい人間関係づくりに努める必要があるのです。

3 学校行事に前向きに取り組ませ、目標を達成させることで学級の絆を強くする。

学校行事を通して子供は育つと言われます。運動会、学芸会、展覧会など大きな行事はもちろんのこと、遠足、社会科見学等でも常に学級の目標等を設け、それに向かって一生懸命頑張らせ、目標を達成させることで学級の絆をより強くするのです。子供たちに学校行事を通して、達成感や充実感を与え、自信をもたせることでよりよい学級集団ができてくることでしょう。

よりよい学級集団ができるかどうかは、すべて教師の指導にかかっています。教師は、子供たちとできるだけ遊んで、一人一人に目を配り、子供たちのよいところを進んで見つけ、それを伸ばすよう努めることです。そして、子供たち一人一人のよいところを皆の前で発表し、一人一人が学級にとってかけがえのない存在であることを話してください。塾生の皆さん。来年の4月から学級集団をつくる第一歩が始まります。そのためにも残りの期間、少しでも教師としての力量を付けるべく、一生懸命頑張ってください。